

これからの大学運営

比嘉善雄新理事長にきく

十月六日、本学の木曜集会における比嘉先生の講演(演題「私とキリスト教」)の後、懇談する機会を得ることができました。

編集部「御健康の都合もある中で理事長をお引き受け下さって、学内の者みんな期待をして、何とか私学のもつ運営上のきびしさを発展させたいという雰囲気が高まっていると思うのですが、何かビジョンみたいなもの、学院はどういう方向で進めば良いのか、そういうのがありましたらお聞かせ下さい。」

比嘉「私はキリストを救い主と信じていますから、これが私の生きる一つのしるしです。物事をすべて、キリストはどうお考えになるか」考えながらものも考えるし発言もする。ただ残念ながら私も人間のはしくれであって、決して信仰が完成しているとはいえないけれども、私どもはイエス様のようになりたい。そういう希望をもって歩みをすべきだと思います。そうすれば、自己中心的でなく偉くなりたとかお金持ちになりたいというのでなく、隣人を愛して幸せになれると思うんです。」

編集部「そういう強い信仰、在り方に支えられて学院を発展させることができるんじゃないかということですね。今度はもう一つ具体的に財政難ということがあって、そのことに皆が心を痛めていると思うんですが、そのへんはどのよう

しこれは自分がこの学校で偉くならうという考えが土台であってはいけません。皆さんで神様に喜ばれる為に頑張っていきたいと思えます。」

編集部「学校債を発行したらどうかという声もあがっていますがどうお考えでしょうか。」

比嘉「なるほど、そういうことを学長や理事に提案して下さい。」編集部「どうやってこの財政的な危機を皆んなのものとして乗りきっていくかが大きな課題であり、教育、財政のバランスを考える場合にその調整に際してどのようにキリスト教主義を堅持するかが問われているのですね。今日はどうもありがとうございました。」

おひきりんの先生やん

保育科 赤嶺 桂子

入学当初、人からこう問われると激しい胸のたかまりを懸命に押えてきこない返事をした自分の姿を思い出します。実際、キリスト教という体験は、自分にあった道を求めて興味のかかるまゝやってきた私にとって大きな刺激となった。このように人間同志のかゝわりのすばらしい出会い、さまざまな発見に結びつくのだ。一つは、人間だれしも共通するんだという

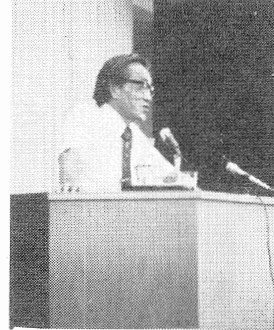
現代の教育と幼児教育

白梅学園短期大学教授 久保田 浩

〔講演要旨〕
御紹介いただきました久保田でございます。大切な初めての御計画におよびいただきまして大変ありがたく存じております。

この頃はどうも、幼稚園や保育園だけじゃなく、小学校の先生達からもおよびがくる場合がございます。先生方は一生懸命です。しかし私はもの足りないものを感じました。それは、先生は一生懸命わからせようとしているけれども、子どもたちがわかっていないんです。すなわち子どもが受け身なんです。『あゝ、そうか』という感動が伝わってこないんです。

教育というのはきまっちゃったことをきまっただけでやるんじゃないかという感じがどうしても子どもたちに伝えない限りやらないことや、自分が感動したような話を自分のク



これは自分がこの学校で偉くならうという考えが土台であってはいけません。皆さんで神様に喜ばれる為に頑張っていきたいと思えます。」

普遍性、もう一つはこの人にしかないという個性との出会いである。私たちが材料のもつ持ち味を生かした料理法を工夫することによって食生活を豊かにするように人間個性を生かして初めて人間らしい人生を築けるのかも知れない。特にキリストの先生方(学生もだが)は個性にとんでいる。その上キリ短には、個性が素直に出てこれる自由な学風が感じられる。私たちがこのびのび生活できる条件はそ

一九七八年度 学生募集

本学は、その特色であるキリスト教の精神に従って教育を行っています。そして教育の門戸は、クリスチャンか否かを問わず、全ての学生に公平に開かれています。本学では、英語学、保育学の専門の学問技術を修得し、更に一般教育を身につけながら、キリスト教を学び、礼拝や人格的交わりを通してキリスト教にふれることができます。

- 一、募集人員
英語科 一〇〇名(男女)
保育科 五〇名(男女)
- 二、資格取得
中学校教諭二級普通免許状(英語)
幼稚園教諭二級普通免許状
保育資格
- 三、願書受付期間
一九七八年一月一〇日(火) 午後九時 午後四時三〇分(平日、但し、土曜日は午前中)

ちがのびのび生活できる条件はそろっていないわけではないのだ。積極的に多くの人とかゝりあひながら、思い切り自分を表現すれば今度は自己との出会いがあるはずだ。問題は、どう実現するがであり、私たち学生も先生方も思いきりぶつかり合っていくことが今のキリ短にいちばん必要で、かつふさわしいことだと思ふのだが、みなさんは、どう考えるだろう...

- 四、試験期日
一九七八年二月一六日(木) 二月一七日(金)
- 五、試験科目
現代国語、社会(政治経済、倫理社会、日本史、世界史、地理Aのうち一科目選択)
英語(英語科はヒアリングを含む) 小論文、歌唱(保育科のみ)
- 六、試験場
(1) 本学
(2) 八重山琉銀支店ホール
- 七、合格発表
(1) 学内発表 一九七八年二月二五日(土)
(2) 新聞紙上発表
- 八、受験料 一三、〇〇〇円
- 九、受付場所
沖縄キリスト教短期大学教務部教務課入試係
諸学費については追って知らせます。



のとき一つの基準が要求されます。それは子どもをどうみるかということです。つまりわれわれの子ども観と子ども像の問題です。しかもそれは生活や保育の具体的場面の中で形成されなければならぬものだと思ひます。

私が日本の子どもたちに期待したいのは、やはり自分が何をやりたのか、自分が全体の中でどんな位置を占めているのか、そういう主體的なものへのとりくみということですね。私は小さいときからそういう主体性を育てておかなければならないんじゃないかと考えているんです。

私の幼稚園では子どもたちが「畑づくり」をやるんですが、それはやりたい人だけやるんです。子どもたちはそこにならばの種をまき、それが収穫されると、用務員のおばさんにたのんでおみおつけをつくってもらって園全体で食べるんですが、それがとてもおいしいので、ある子どもはうちに帰ってお母さんにならばのおみおつけをつくってくれるようにたのんだらしいんです。ところが、夕食のとき、その子はお母さんの顔をみて、「ママ、これとてもおいしいけど、幼稚園のおみおつけはもっとおいしいんだ」といったというんです。これはそのお母さんが話してくれたことです。

なぜ幼稚園のおみおつけがおいしいのか。それは自分および自分達で自分のために自分達のためにつくったからです。だからお母さんが努力してつくってくれたものよりもおいしいんです。

主体性というのはむしろかきいことではなく、自分がやった経験がとなりの経験につながっていく、つまり自分達の生活を自分達がいとなんでいくということなんです。教育ってそういう経験や体験の場をどう組織的に用意してやるかっていうことじゃないでしょうか。それからもう一つ大事なことは、子どもに社会性をどう育て、やるかという問題です。

いま子どもたちは日常生活や園や学校での生活のなかで、仲間と一緒にいるたのしさを経験しているでしょうか。どうでしょうか。

これは東京の小学生の話ですが、電車の中などでその会話をきいてみると、お互いに手帖をもち出して暇をたしかめあっているのを見うけることがあります。これではまるで会社の重役の会話のようです。子どもの社会性はまずあそびのなかで育ってくるんですが、それはあそびが本質的に集団的だからです。それにあそびのなかには何よりも出会いのたのしさがいっぱいあります。

しかし、保育のしごととは一人のりっぱな教師によってではなく、保育者の集団によって実現されるものですから、支えあう仲間の集団や父母との結びつきを大事に育て、ゆく必要があると思います。

(一九七七年、八月八日、第一回夏期保育講座における講演より。参加者数約百二十名。主催・本短期大学)

サマーワークショップ開かれる

深夜まで白熱の論議

第四回サマーワークショップは「専門的知識を身につける」八月五日と六日、恩納村の沖繩福祉会館で開かれた。木の香も新しい、一部ではまだ雑音が響く海辺の会場に集ったスタッフは、本学が現在かゝっている諸問題や将来のヴィジョンについて、初日は延々深夜の二時まで、二日は午後四時まで議論をつくり、多くの意見がたゞかわされた。二日間の成果が今後どのように本短大の教学に生かされるか注目される。

英語科
保育科

「職業に必要な資格を」
「キリ短主の実態」まともな高校時代の成績から、宗教、家族構成、入学に際しての意識、経済状況、休、退学状況、居住地域にわたる文字通りの本短大生の実態調査の結果がわかった。発題者の渡久地氏はアプローチの仕方として、主観的把握をできるだけ避けたこと、特にこのワークショップのための調査や研究は行なわないうことを前置きしている。★項目の調査結果は次の通り。

共通の目標に向って

学 長

十一時二十分、讃美歌三八五番「霊の戦い」の合唱の後、金城学長が新約聖書マルコによる福音書三章一説を朗読した。学長は、安息日に善を行なうのと悪を行なうのとではどちらがよいかを解き明かし、最後に我々が立っている共通の地盤を確立し、共通の目標を見きわめることができれば今年のワークショップは成功だと結んだ。

四氏が研究発表

引き続き発題者の発表に移り、大城武氏の「高校生の実態」、渡久地政順氏の「キリ短生の実態」、浅野恵美子氏の「教授会の分析と考察」、伊志嶺博志氏の「種集会について」の研究発表が行なわれ、活発な質疑と意見が交わされた。

は、英語科五、保育科一となっている。

《本短大志望の理由》

英語科で最も多かったのは、「実用的で生きた学問を身につける」の九八人で、ついで、「英語が得意だから」が六五人。保育科では「目ざす仕事に必要な資格を得る」が一〇八人でトップ、ついで「就職、進学、留学に都合がよい」の五三人。

《学生生活で重点をおくこと》

英語科、「専門知識を身につける」が九〇人、「大学生活を楽しむ」が八一人の順。保育科、「目ざす職業に必要な知識を得る」が最も多く、「専門的知識を身につける」が七八人。

《大学生生活で不安に思っていること》

英語科、進路九一人、学業八一人。保育科、学業四九人、進路四人。

《学生生活調査》

家庭からの給付のみで修学可能な者、英語科六二人、保育科、四人。家庭からの給付のみでは不自由、または修学困難な者、英語科二〇人、保育科二二人。

《アルバイト調査》

英語科、家庭教師三人、事務員二人。店員十二人、その他三人。保育科、家庭教師二人、事務員三人、店員、ウェイトレス八人、その他三人。

《奨学生状況》

英語科一年次、学内奨学生二、日本育英会二六、保育科一年次、学内奨学生四、日本育英会十三。英語科二年次、学内三、日本育英会二二。結局、十八名の学生が奨学金を受けていることになる。これは国立大（琉大）の三六％と比較するとかなり低い数字といわねばならない。学校側としても、この問題と真剣に取り組んでいる。

《職員から見た本学の学生》

発題者による発表の後、質疑応答、意見発表があり、本学学生に対する所感として、遅刻生が多い、レポートの提出期限を守らないことなどが指摘され、自分に対するきびしさが足りないという結論が出た。

また、高校別入学者数の件で、北部地区高校からの入学者が少ないうことが話題に上り、過去の合格率を見て本学を敬遠していること、那覇市内の住宅事情の悪さ、宗教系大学に対する偏見、などの意見が出た。

高校生の実態

大城武氏による報告。地元のある高校生六百人を対象に行なった調査の結果をまとめたもので、概要は次の通り。

《高校入学の理由》

知識を広め、教養を高めるためと答えたものが、男女とも二七％で最も多く、次いで、大学進学のため、が十八％と以外に少なく、「就職に有利」、「高校へのあこ

旧き良き時代は 終ったか？

〓OCJCキャンプの 廃止をめぐる二〓

一九六八年以来、九回にわたって実施されたOCJCキャンプ（以下キャンプと略す）が今年、廃止になった。

OCJCキャンプの存廃を考える委員会（委員十一人、委員長に伊志嶺博志氏）は、六月九日付、次のような答申を行なった。
「OCJCキャンプはこれを廃止する」

●理 由

1. キャンプの定義
OCJCキャンプとは学校当局が主催し全員参加が期待されて全員の交流を目的として行なうキャンプである。

2. 上記定義に於けるキャンプはもはやその意義を失ない企画する方も参加する方も意欲を失なう

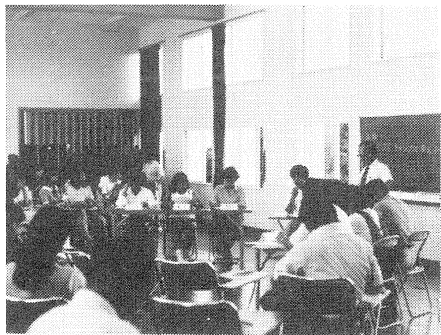
：略：ティフト大学の学部長のお宅にお世話になっていました。大学は九月四日に始まりますので、そのうち、寮に移る予定です。
テネシーでのサマー・スクールでは、パーティーの司会をしたり、おれのスピーチをしたり、大活躍いたしました。キリ短出身であることを大いにアピールしましたので御安心下さい。偶然にも、サマー・スクールでの私のクラスの先生は、キリ短で教べんをとったことのあるハンブリック博士でした。

●聞 論 '77

キャンプ廃止問題をめぐって、全学集会委員会は討論会を計画し、七月二十一日に、オレゴン方式、ネル・ディスカッションがもたれた。これによって「全学的に討論し、相互理解を深め、新しい方向性

アメリカ便り

：略：八月十九日、ロサンゼルス空港着比嘉有子さん（七四年卒）、嘉納尚子さん（七四年卒）の出迎えをうけました。テキサスでは知念知恵子さん（七五年卒）、田島洋子さん（七四年卒）に久しぶりに会い、三人でダラスのモーガンさんを訪ねました。：略：ハンディンドン大学から車で十五分のところにロイ先生（注元本



を見出す」ことが期待された。比嘉健次郎氏の司会のもとに、存続派には、伊志嶺博志、前里光盛、仲地文子の三氏、廃止派には浅野恵美子、国吉真紀子、中村朝子の三氏を配して、活発な討論がなされた。参加者は百五十余を数え、関心の高さをうかがわせた。

●迷走する目標

このキャンプは、参加者の共通の目標や方向性を見失っている。

短大講）のお宅があります。まるで家族の一員であるかのように色々とお世話になっていきます。それでホームシックにもならず元気なやっています。

私の専攻はSpeech and Dramaで今学期は四科目とっています。今までのところ大きな問題にもぶつからずなんとかやっております。講義の方もだんだん分るようになってきました。がんばります。：略：仲西美津枝（七六年卒）

●キャンプ小史

第一回（一九六八年）新入生オ

がれ」、「なんとなく」、「世間てい」の順。男女間の違いで注目されるのは、「あこがれ組」で、男子九％に対し、女子が二％。これについて、大城氏は、指向性には男女差があり、男子は目的であるのに対し、女子は無目的だと分析している。

《卒業後の希望進路》

普通コースの生徒の約八〇％、職業コースでは三八％が進学を希望している。進学希望者の男女間の違いで目だつのは、短大進学希望者が男子五・八％に対し、女子が二・九％近くもいること。

《授業への適応性》

約四割の人が授業への不適応を示している。授業が「あまりわからない」、「ほとんどわからない」理由としては、「予習・復習が足りない」「二八・四％と」、「努力不足」を認め、基礎ができていないことを認めた人も二六％と多く、教え方に問題があると答えた者も二〇％いた。



リエンテーション、キャンプと併設。全員参加が要請された。

第二回（一九六九年）「われわれの大学生活を考える」、ゲストは砂川恵伸氏。

第三回（一九七〇年）「われわれは愛しうるか」ゲストに、佐古純一郎氏。

第四回（一九七一年）「愛にあって真理を語る」

第五回（一九七二年）「沖繩キリスト教短大再考」ゲストは高橋三郎氏。

第六回（一九七三年）「生きる」私の可能性を求めて。福岡女学院とのキャンプ交流開始。

第七回（一九七四年）「男と女」学生増その他の理由により、任意参加となる。参加者は二八人。

第八回（一九七五年）「生きがい」生きることを愛すること」参加者五七人。

第九回（一九七六年）「統一テーマなし。キャンプ案内は「学生と教職員との対話、交流を主旨とし、キャンプの経験を通して何か新しいものを見出し、明日へのエネルギー」と記している。参加者は七八人。

●死と再生

十年前、多くの先輩達が深遠な目的をもって始めたであろうユニークなプログラムは終わった。旧き良き時代の終焉である。しかし、絶えず変容し多様化する「現実」に対応しつつ、飛躍と発展を賭けて、新らしき良き時代を創作する責任がわれわれに課せられているのではあるまいか。